

つたえたい 自分のおもい 心にひびく 熱いメッセージ

平成29年度田村市少年の主張大会が8月5日、市文化センターで開かれました。各学校や各地区から選ばれた小学生6人、中学生7人が、社会に向けた意見や未来への希望、日頃から心に思い描いていることなどを、来場した大勢の市民の前で力強く発表しました。

今回は、中学生の部、小学生の部で最優秀賞に選ばれた発表を紹介します。



〈中学生の部〉
最優秀賞 山代 綺華 さん

友よ、この先もずっと

船引南中学校3年

山代 綺華

小学校の時、私にはとても仲の良い「ゆうき君」という男の子の友達がいきました。彼はスポーツ万能で、クラスみんなを笑わせてくれるムードメーカーでした。恥ずかしがり屋なところもあるけれど、女子が重い荷物を持っていると、何も言わずにそっと持ってくれるような、とても優しい人でした。勉強で分からないところを「ここはこうだよ」と丁寧に教えてくれたりもしました。同級生なのに、何でもできて、優しく、私より一歩も二歩も先を歩いていた彼は、私のヒーローでした。

小学校4年生の夏休み。ゆうき君との別れは突然やってきました。私は、家の居間で家族とテレビを見ていました。その時、帰宅した祖父の言葉に、私は耳を疑いました。「おい、ゆうき君が亡くなったって。」

話は続きましたが、祖父の声は、どんどん遠くなっていきました。ゆうき君が亡くなったのは家族で出かけた埼玉で、ゆうき君たちが乗っていた車に居眠り運転のトラックが追突したからでした。ゆうき君は、妹の愛ちゃんに覆いかぶさるようにしていたそうです。その時亡くなったのは、ゆうき君ただ1人でした。

私は、その現実を受け入れることができませんでした。そんなうそだ。だって、ついこの前まで一緒に遊んでいたのに。信じない。信じたくない。ゆうき君、帰って来て。そればかりでした。クラスみんなでゆうき君に別れのメッセージを書きましたが、彼の思い出がたくさんありすぎて、枠に収めきれませんでした。

ゆうき君が天国に旅立って5年。私は中学生になりました。ゆうき君のいない寂しさは消えず、何に対しても今一つ身が入りませんでした。

今年の6月、私は、キャスターの小林麻央さんが亡くなったことを知りました。乳癌を患い、34歳の若さでした。その時、私は彼女と残された方たちを単純にかわいそうだと思いました。しかし、それは間違いであることに気がされたのです。

「私がかわいそうだと思われたくない。私の人生は、夢を叶え、もがき苦しみ、家族に愛され、愛した、彩豊かな人生だ。」

小林さん自身の言葉です。私は、はっと胸をつかれました。私は、早くに亡くなった人の人生は、不幸なものだと思ひ込んでいました。しかし、小林さ

んの言葉で、人の一生というものは、長さだけでは測れないのかもしれないと思ひ直しました。

ゆうき君の人生は、たった9年でした。しかし、小林さんの言葉で、彼には彼の、たくさんの人をいたわり、愛され、輝いた日々があったことを、私は思ひ出しました。

大事な人を亡くした悲しみは、そう簡単には消えませんが、しかし、残された人がいつまでも泣いていたら、亡くなった人も天国で心を痛めてしまうと思います。だから、生きている私たちは、たくさん泣いたら涙を拭いて、亡くなられた方の分まで、人生を一生懸命、前を向いて歩いていかななくてはならないのです。そうすることで、亡くなった人の人生は、私たちの心の中にはないでしょうか。

私は、これからゆうき君を語る時、彼がいかに亡くなったかではなく、どんなに素敵な日々を過ごしたかを語ろうと思います。そして、安心して学校で勉強できること。趣味を楽しみ、友達と笑い合えること。時々けんかもあるけれど、心配してくれる家族がいること。そんな当たり前に感謝しながら、日々を大切に過ごしていきたいと思ひます。なぜなら、私たちが何気なくやり過ごす今日は、もっと生きたかった人たちのかけがえのない明日かもしれないのですから。

みんなを照らす光となれ

船引小学校6年

猪越 千寛

ぼくの住んでいる田村市には、田村っ子が守らなくてはならない決まりがあります。それが「田村っ子ルール10」です。みなさんは田村っ子ルール10を言えますか。その中で、ぼくが一番なくてはならないと考えているルールは、一番最初に書かれている「あいさつをしよう」です。なぜそういうふう

考えていると、答えが見つかりました。その答えとは、上の学年になればなるほど、あいさつができていないということです。1年生のときはあんなに元気よくあいさつができていたのに、学年が上がるとつれてどうしてあいさつができなくなるのでしょうか。ぼくには2つの理由が思ひつきました。

まず、はずかしいと思うからではないでしょうか。学校では「自分たちであいさつを進んで」と教わっているにも関わらず、はずかしいという気持ちがあると、急に声が出なくなり

思つかるといふと、あいさつは人の気持ちを変えることができるからです。

「おはようございます。」

こうして声に出して言うことで、ぼく自身、今日も一日がんばるぞというすっきりした気持ちになり、また、あいさつをされた人も笑顔になってくれます。「千寛さんのあいさつは元気がよくて良いね」と先生方や地域の方々にほめていただき、僕は、あいさつをすることが好きになり、そして自信になりました。

ぼくは、あいさつは人の心を照らす光だと考えています。朝、どんなに暗い気持ちになっても、「おはよう」の一言で明るい気持ちになれます。ぼくの特技のあいさつを生かして、あいさつのすばらしさを学校中に広めよう、手本になろうと思ひ、5年生から「生き生き委員会」に入りました。そ

きると元気な声であいさつができなくなってしまうのだと思ひます。2つ目は、あいさつをしても、あいさつを返してくれなかったらどうしようか。あいさつをしても、あいさつを返してもらえないときは確かにあります。でもそれは、決して無視をしたり、わざとあいさつをしないのではなく、何か忙しかったり、急いでいたり、別な人と会話をしていたりして、あいさつをされていること自体に気づけていないことがあります。だからといって、あいさつをしないのでは、だれもあいさつをしなくなってしまう。こうして不安や怖さは理解できません。ですが、考えてみてください。下級生の手本にならなくてはならない

して、6年生になってからは、みんなを導けるように、委員長に立候補しました。

生き生き委員会の大切な活動の1つに、あいさつ運動があります。毎週水曜日の朝、昇降口の前や横断歩道のところにあいさつの旗を持って立ち、みんなにあいさつをします。ぼくは委員長として、率先して準備をし、誰にも負けない元気なあいさつを積極的にしています。多くの人があいさつを返してくれますが、なかなかあいさつが学校中に広まっていかないと感じていました。

そのわけをあいさつ運動をしながら



〈小学生の部〉
最優秀賞 猪越 千寛 さん

生き生き委員会の活動が人の心を照らす光を増やし、次は船引小学校が田村市に住む人々を照らすことができたら、どんなにすばらしいことでしょうか。そのために、ぼくはやりま

す。そのために、ぼくはやりま

田村市少年の主張大会は、青少年の健全育成を目的に、田村市青少年健全育成市民会議が毎年開催しています。今後とも、子どもたちの健やかな成長のため、周りや地域の皆様のご理解とご協力をお願いします。